東北ブロック精神科担当の先生方

多くの方々に対しまして大変ご心配をお掛けいたしました。
私は無事でございます。

　地震発生日は病院で夜を明かしました。
　本館の裏には平屋建ての病棟があるのですが、その病棟の患者を本館３階へ、本館２階の患者を４階へと避難させて間もなくでした。大津波が襲ってきました。建物の１階は海水に浸かりました。正に映画を見ているようでした。当院と老健施設、そしてグループ病院と３施設すべてが大地震と津波の被害を受け、その影響は甚大であります。患者全員の命を守るため、避難については職員総出で尽力いたしました。

　地震と津波による被害に加え、現在福島県の浜通りでは、刻々と状況が変化する福島第一原発の事故、被曝を避けるための住民避難と物流の停止、断水やガソリン不足が続いております。それはそこに暮らす私たち誰もが想像しなかった厳しい現実が続いております。昨日から本日にかけては、半径２０キロ圏内の避難エリアに加えて、半径３０キロに住む住民が屋内退避を余儀なくされました。
　しかし、私たち職員は拡散してしまった放射性物質から少しでも身を守るため、ビニール袋を頭から被って毎日被災した職場に出勤しております。さらには屋内退避勧告により物流関連企業の各社が事業所内待機や配達便数の縮小を生み、医薬品の配達が制限されております。また市内の各薬局が店舗を閉めたため、院外処方の応需が止ってしまい、それは二重三重の苦しみであります。これは外来患者にとってかなりの打撃となっております。明日以降回復に向かうことを願ってやみません。いわきは原発から５０キロも離れているのに、個人も事業所も過剰に反応しているといった状況です。
　現在、調剤室は水に浸かってしまったために電源が確保できない状況です。オーダリングシステム（水害でサーバが故障）、分包機、薬袋プリンター、その他 PC なども殆どの機器が使えなくなってしまいました。現在は散薬や錠剤をすべて人の手で薬包紙に包んで投薬を行う毎日です。

舞子浜病院
吉田憲一